

23 ネギ

地域慣行基準（根深（軟白）ネギ）

【化学肥料】

区 分	窒素成分量 【kg/10a】	備 考
県下全域	25	

※前年秋に有機物の腐熟促進のため、石灰窒素などの窒素を含有する肥料を施用した場合は、窒素成分で4kg/10aを上限に、施用した窒素成分を地域慣行基準に加えるものとする。

（1）特徴及び吸収特性

ネギは在ほ期間が3～6ヶ月と長いことに特徴がある。苗が活着し伸長を始めるまでの定植後1か月程度は養分吸収量が少なく、定植後3～4ヶ月が最も盛んに養分を吸収し、その後は気温が低下するまで緩やかに養分吸収が続く。ネギは吸肥力が弱い作物とされ、多肥になる傾向があるが、緩効性肥料や有機物を活用するとともに、追肥を効率的に行うことが減肥につながる。

基肥50～60%追肥40～50%の配分で施用される場合が多いが、土壌が肥沃な場合は追肥主体となる場合もある。土寄せを兼ねた追肥は重要な作業で定植1ヶ月後から3～4回行う。葉の色の濃い軟白部の長いネギとなるように生育状態をみながら土寄せの強さや追肥量を調整する。

窒素が欠乏すると株が大きくなり葉色が薄くなる。リン酸が欠乏すると分けつが悪く株が大きくなり収量への影響が大きい。

ネギは乾燥には比較的強いが**湿害には弱い**ため、ほ場が滞水しないよう**排水にも気をつける**。作土が深く、透水性、保水性がよい土壌が栽培に適し、**有機物施用による土づくりや深耕の効果が高い**。

目標収量と養分吸収量（早春まき作型）

目標収量(kg/10a)	養分吸収量(kg/10a)		
	窒素	リン酸	カリ
4,000	12～18	3～5	14～20